

帝国農会幹事 岡田温¹²⁾

—— 帝国農会幹事時代^⑥ ——

川 東 蛸 弘

目 次

はじめに

- 第1章 大正10年
- 第2章 大正11年（以上、第18巻第1号）
- 第3章 大正12年
- 第4章 大正13年（以上、第18巻第2号）
- 第5章 大正14年
- 第6章 大正15年（以上、第18巻第5号）
- 第7章 昭和2年
- 第8章 昭和3年（以上、第18巻第6号）
- 第9章 昭和4年（以上、第19巻第2号）
- 第10章 昭和5年（本号）

は じ め に

前稿¹⁾で、帝国農会幹事・岡田温の帝国農会幹事時代（大正10年4月～昭和11年9月）の活動のうち、大正10年～昭和4年まで考察したが、本稿では昭和5年（1930年）の温の活動について考察することとする。本年は、前年10月アメリカに端を發した大恐慌が世界恐慌に發展し、日本はその影響を直接受け、全般的恐慌状態に陥った。いわゆる昭和恐慌である。中でも農業・農村恐慌が深刻化し、農家所得は激減し、農家負債は増大し、農民は窮乏のどん

1) 拙稿「帝国農会幹事 岡田温(7)(8)(9)(10)(11)－帝国農会幹事時代①②③④⑤－」（『松山大学論集』第18巻第1号、2、5、6号、2006年4月、6月、12月、2007年2月、6月）。

底に陥った。帝国農会はこの昭和恐慌、農業、農村、農民危機打開のために、下からの農政運動を盛り上げていき、温がその中心的役割をになっていた。

第10章 昭和5年

昭和5年(1930)、温、59歳から60歳にかけての年である。帝国農会の幹事を続けている。

本年は農業、農村、農民の危機がさらに深まった。繭価(全国平均上繭1貫当たり、春蚕)は昭和4年には7円57銭であったが、5年には4円に暴落した。米価(暦年平均、1石あたり)は昭和元年(1926)の37.86円が、2年に35.26円、3年に31.03円、4年に29.07円へと一貫して下落・暴落していたが、5年に25.60円へと一層暴落した。出来秋には大暴落で、9月の28.70円が、10月19.13円、11月18.13円、12月18.04円と一気に惨落した²⁾この米価暴落の原因は、前年発生のアメリカの大恐慌が日本に波及し、昭和恐慌となり、日本を恐慌状態に陥れたこと、また、朝鮮・台湾からの移入米の激増が続いたこと、そして、昭和5年産米の大豊作のためであった。日本農業の基軸である繭価と米価の大暴落は、農家を窮乏させ、農家負債は増え、深刻な社会問題となった。

この米価・繭価の暴落に対し、帝国農会は1月に道府県農会長会議、7月にも再度道府県農会長会議を開催し、11月には全国農会長大会を開催し、農村恐慌問題、米価・繭価問題、農家負債問題、米穀法改正問題、農業経営改善問題等に取り組み、下からの農政運動を強力に展開した。温はその運動の中心的位置にいた。

以下、本年の温の多忙極まりない活動を見てみよう。

2) 大日本蚕糸会『蚕糸年鑑』(昭和8年版)63, 184頁。加用信文監修, 農政調査会編集『改訂日本農業基礎統計』(農林統計協会, 1977年)546頁。

第1節 帝国農会幹事活動関係

昭和5年(1930)、温は正月を故郷で迎えた。1日は午前9時より石井小学校における拝賀式に参列し、午後は部落の新年宴会に出席し、来る1月4日の石井村会議員選挙について話している。2日は温宅所有の石井村大字南土居字長末の土地1反11歩(小作人の柏儀一郎が小作)の売却を決した。また、この日、北土居の越智太郎(温の父親の実家の長男)が来訪し、新宅(故、岡田義朗宅)の家産整理の報告を受けている。3日は終日在宅し、多数の来客者(大西健多、岡田英雄、渡辺荘一郎、北村五元、戒能英四郎、野口文夫、菅原弁吾、中川友厚、石丸謀)に应对した。4日は石井村会議員選挙があり、大字南土居から永木亀喜が立候補していたが(故、岡田義朗の後任)、得票予想が多いので、温は大字古川から立候補した今村菊一に投票している。この日の日記に「村会議員ノ選挙ヲナス。永木亀喜君ノ得票余リアルヲ以テ、今村菊一君ニ投票ス」とある。5日は自宅で家例の家祈禱と村長や部落役員を招き、温の還暦の祝いをし、6日に家族一同と写真を撮った。

1月7日、温は松山9時40分発にて今治に出張し、越智郡農会の表彰記念講演会に出席し、午前11時半より講演を行い、この日は順成舎に宿泊した。翌8日、温は午前8時50分今治を出て、松山に帰り、10時半からの温泉郡農会主催の農業経営研究会に出席した。各町村より80余名の技術者が出席し、熱心に意見の交換をなした。9日は松山中学校に行き、長男慎吾の主任の広瀬教諭や倉橋教諭に会い、慎吾の高等学校受験について相談している。10日は県農事試験場に行き、帝農と愛媛県農会共同主催の販売斡旋講習会に出席した。各郡より100余名が出席し、温が農産物価格論について講演を行った。

1月11日、温は東京で再び活動するために、午前10時50分高浜発にて出発し、尾道経由で上京の途につき、翌12日午前8時半東京に着いた。以降、温は帝農に出勤し、種々業務を始めた。

1月15日から17日にかけて、首相官邸にて米穀調査会の特別委員会が開催され、出席した。15日は午後1時半より第22回特別委員会があり、この日は

従来の特別会計の損失を一般会計に移す案が議題となり、賛成多数で可決されている。16日は午後1時より第23回特別委員会があり、この日は特別会計借り入れ金の利子補給案が議題となったが、政府側が反対し、6対8で否決されている。17日も午後1時50分より第24回特別委員会があり、この日は最大の焦点である朝鮮米移入調節案が議題となった。小委員会案は「内地に移出する鮮米の数量を月別平均的に調節する為、総督府に適當なる方策を樹立せしむべし」という微温的な案であった。この会議に松田源治拓務大臣が出席し、総督府側の意思を代弁し、総督府側において「誠心誠意」適當なる方策をとる意志があることを表明した。それに対し、帝農側の矢作栄蔵委員が具体案を示すようにと質問したが、松田拓相は具体的なことは明言できない、信頼していただきたいという表明にとどまった。また、衆議院議員の三輪市太郎委員が拓務大臣の答弁に「ただ単に政府を信頼せよということは、即ち吾々に知らしむべからず、依らしむると云う」方針だ、委員会の「軽視」だ、「侮辱」だと非難したが、松田拓相は軽視していない、侮辱していない、出来秋に朝鮮米を一時に移入することを防止するために適當な方策を講じる、政府を信頼していただきたいと答弁を繰り返した。結局、政府を信頼するということで、決着がついた。これにて、米穀調査会の特別委員会は終了した。特別委員会の決議は、

1. 米価基準を設定する事は緊要なりと認む、依って政府は速やかに米穀法の発動に必要な米価の最高最低の基準を調査決定すべし。
2. 農業倉庫を奨励し、之に低利資金を融通すること。
3. 内地に移出する朝鮮米の数量を月別平均に調節する為速やかに朝鮮総督府に於て適當なる方策を樹立すべし。
4. 外国米輸出入許可制度を設け、一定数量の輸入を許可し、同時に輸出をも許可を受けしむることとし外国米輸出入の管理統制を図るべし。
5. 従来の米穀需給調節特別会計の損失を一般会計に移すこと、となった³⁾朝鮮米移入問題をめぐっては、帝農側に大いなる不満が残った。

3) 『米穀調査会議事録』第2巻、299～378頁。

1月18日以降、温は帝農の業務等を種々行った。18日は溜池三會堂にて開催の全国蚕糸業大会に出席、19日は富民協會依頼の原稿（農業経営）の執筆、20日は午後6時より在京評議員会を開催し、桑田熊蔵、岡本英太郎、加賀山辰四郎委員出席の下、来る道府県農会長協議会への提出議題を協議した。21、22日の両日は、帝農主催の蚕業懇談会を芝公園協同會館内の帝農仮事務所にて開き、繭糸価下落対策を協議した⁴⁾。

1月21日、浜口民政党内閣は、議會では与党の民政党が過半数を割っていた為、与野党逆転を狙い、衆議院を解散した。日記に「午后四時四十分議會解散トナル」とある。

1月23日より3日間、帝農は道府県農会長協議会を帝農仮事務所にて開催した。議題は、1. 米価問題に関する件、2. 養蚕問題に関する件、3. 昭和5年度道府県農会予算に関する件、4. 農会記念日並びに農会歌設定に関する件、であった。1日目の23日、道府県農会長から米価問題に関し農林当局の出席、説明の要望が出て、温と荷見安米穀課長が農林省に出頭し、町田農林大臣又は高田耘平農林政務次官の出席を求めることになった。2日目の24日に高田次官の出席の下、米、繭、生糸融資問題について質疑がなされ、後、委員会に付された。米価問題の委員会に矢作会長が出席し、米穀調査会の特別委員会の状況を説明し、悲観的発言をしている。この日の日記に「道府県農会長会。高田次官出席。米、繭、生糸融資問題ニ付、質問ニ答フ。議題全部ノ一通り討議ヲナシ、委員ニ移シテ散會。直ニ委員会ヲ開ク…。米価問題ノ委員会ニ会長出席。米調委員会ノ模様ヲ話シ、且ツ悲観論ヲ述フ。二、三ノ異論現ハル」とある。終わって、午後5時より農政協會常務委員会を開いた。菅野三津蔵（山形県農会幹事）、松岡勝太郎（岐阜県農会副会長）、松山兼三郎（愛知県農会幹事）、原鉄五郎（埼玉県）、池沢正一（千葉県農会副会長）、山崎時次郎（千葉県農会幹事）、佐藤賢太郎（秋田県農会幹事）、池田亀治（宮城県農会長）ら出

4) 『帝国農会報』第20巻第2号、昭和5年2月号。

席の下、浜口内閣下の来る総選挙対策について論議した。3日目の25日、午前委員会、午後本会議を開き、米価問題、繭価問題等の決議事項を決定した。

この道府県農会長協議会の決議事項中、「米価問題ニ関スル陳情書」は次の通りである。「連年米価ハ低落ノ一方ニ傾キ、農家経済ハ常ニ窮迫ヲ告ケツ、アルノ際、昨今又々大暴落ヲ見、農村ノ惨状筆紙ニ尽シ難キモノアリ、民心為ニ競々トシテ不安ノ状態ニアリトス。人或ハ云フ。現時物価ハ下落ノ傾向ニアリ、米価亦大勢ニ伴フモノナレバ農家ハ宜シクコレヲ忍ブベシト。然レドモ地方ニ於ケル物価ハ都市ニ比シ下落スルコト遙ニ少ナク、又諸公課ノ如キモ其国税タルト地方税タルトヲ問ハズ農家ハ他ニ比シテ常ニ過重ノ負担ニ苦シミツ、アルハ周知ノ事実ナルモ、何等コレニ対スル矯正ノ方策行ハレズ、而シテ其ノ主要農産物タル米価ハ前途ノ如クナルニ対シ、物価大勢論ヲ以テ抑圧セントスルガ如キ不当モ亦甚シト云ハザル可ラズ。若シ此儘ニ放任センカ六百万戸農家ノ破滅ハ到底免ル可ラザル運命ニ陥ルベシ。是果シテ国家ノ慶事ナルヤ、思フテ茲ニ至レバ肌ニ粟スルノ感ナクンバアラズ。故ニ吾等ハ一意専念生産費ノ減少ヲ計リ経営ノ改善ニ努メ此ノ難局ニ処スルノ方法ヲ講ジツ、アルモ、窮迫ノ度甚大ニシテ自己ノ力ノミヲ以テコレヲ防止スルコト頗ル困難ナリトス。依テ政府ハ此ノ農家ノ実情ニ鑑ミラレ、目下焦眉ノ対策ヲ講ゼラル、ト共ニ、根本政策ニ就テモ一日モ速カニコレガ確立ニ努メラレ、農家の経済ノ維持ト民心ノ安定を計ラレンコトヲ切望ス」。

また、道府県農会長協議会は米穀調査会特別委員会で決定した米穀政策に対しても、次のような要望を決議した。「目下米穀調査会ニ於テ審議中ノ米穀政策ハ其決定条件ノ如何ニヨリ農村死活ノ岐ルル重大問題ナルヲ以テ特ニ左ノ事項ニ付深甚ノ考慮ヲ払フ様政府へ要望スルコト。一、米価調節ノ目標タル基準米価ハ米ノ需要増加ニ伴フ内地ノ生産増殖ヲ促進シ得ベキ生産条件即チ米作ニ要スル内地ノ普通ノ生産費ニヨリ決定セラルベキコト。二、生産事情ヲ異ニスル朝鮮及台湾米ノ移入ニヨリ自然ナル米価ノ低落ニ対シテハ現実的效果ヲ収メ得ル調節策ヲ励行スルコト。三、米穀需給調節特別会計ノ基礎ヲ確実ナラシム

ル事」⁵⁾すなわち、帝農は昭和農業恐慌下、農家経済の「窮迫」「農村ノ惨状」「過重ノ負担」「農家ノ破滅」等を強調し、米価引き上げを求めるものであった。

1月25日、温は午後10時50分東京発にて京都へ出張し、翌26日午前10時30分京都に着し、宇治に行き、同町公会堂における久世郡農会主催の講演会に出席し、講演を行った。終わって、宇治の平等院を拝観し、その日は京都に宿した。27日は午前中比叡山に登り、午後は乙訓村に行き、販売斡旋の講習会に出席し、講演を行い、午後9時49分京都発にて東京への帰途につき、翌28日午前9時東京に着し、帰宅した。29日以降も種々雑務、原稿（農会時報）の執筆等を行った。

2月も、温は帝農の業務を種々行い、出張した。また、来る衆議院選挙関係で、各方面に働きかけをした。1日は富民協会の原稿（農業経営）を執筆し、また、総選挙について愛媛の門田晋（愛媛県農会長）に注意の手紙を出した。3日は午後小作法小委員会を開き、夜は在京評議員会を開催した。4日も午後小作法小委員会を開いた。5日は午前貿易農産物委員会を開き、午後は駒場に行き、農科の実科学生に対し、講演を行った。7日は午前は帝農幹事会、午後は地租改正委員会を開催した。

2月8日、温は午前9時20分上野発にて埼玉県に出張した。鴻巣村に行き、同県農会主催の郡町村農会技術者経営講演会に出席し、午後5時まで講義を行った。翌9日も午前9時半より午後4時まで講義を行った。10日も午後3時まで講義し、終わって、4時20分鴻巣発にて帰京した。この日、愛知県農会幹事の松山兼三郎に瀧正雄候補（愛知県、政友会）の応援依頼の手紙を出している。12日は午後貿易農産物委員会を開いた。また、この日総選挙関係で、福島県農会幹事の野村直雅、山形県農会幹事の菅野鉦次郎に助川啓四郎候補（福島県、無所属）応援依頼の手紙を出している。13日は農業経営指導宣伝のパンフレットの製作等、14日は秋田県講演の筆記手入れ等、15日は西カ原

5) 『帝国農会報』第20巻第2号、昭和5年2月号。

に安藤副会長を訪問し、経営宣伝パンフにつき相談、また、幹事会を開いた。16日は原稿（農業経営）の執筆を行った。

2月17日、温は午前9時40分東京発にて愛媛へ選挙のために帰郷の途についた。この日大阪に着いたときは船がすでに出航した後で、温はやむなく天保山の旅館に宿泊し、翌18日午前11時発の群山丸に乗り、19日午前7時に高浜に着した。その後、温は愛媛県1区から立候補している政友会の須之内品吉と民政党的松田喜三郎候補の事務所を訪問した。この日の日記に「午前七時高浜着。松山ニテ手荷物ヲ預ケ、須ノ内、松田両候補者ノ事務処ヲ訪問ス。須ノ内君ノ処ニテハ岡本、三好両参謀ト須ノ内君ト会談。大丈夫ノ見込ヲツケタルカ如シ。松田君ハ与党ニテ好評。最モ安全ナルモノ、如ク、其他ハ見込立タス」とある。

2月20日が、浜口内閣下の第17回衆議院選挙の投票日で、温は政友会の須之内に投票した。しかし、選挙情勢は与党の民政党に有利で、野党の政友会は不利であった。この日の日記に「議員選挙ヲナス（須ノ内候補ノタメニ）。最近巧妙ナル干渉ノ手全部ニ及ビ、野党側ハ萎縮セルカ如シ。我石井村ノ如キ九百三、四十票、内政友投票ハ三百乃至四百位ノ由ノ見〔込〕ナリト」とある。22日、総選挙の結果が判明した。愛媛県の第1区（定員3）で武知勇記（民政、新）、松田喜三郎（民政、新）、高山長幸（政友、前）の3人が当選し、須之内品吉（政友、前）と西村兵太郎（民政、新）が落選した。この日の日記に「開票中リシモ須之内君ノ空気不良ナリシヲ以テ立寄ラス」とある。総選挙結果は県内では、民政6、政友3で政権党の民政党的の圧勝となり、全国的にも民政党的273、政友会174で、民政党的の圧勝であった。

2月23日、温は午前7時半松山発の自動車にて高知に出張し、午後4時高知に着した。この日、温は総選挙で当選した県選出の9名の代議士の外、浜口首相、町田農相、高田耘平（栃木、民政）、近藤豊吉（北海道、政友）、八田宗吉（福島、政友）、小野重行（神奈川、民政）、多木久米次郎（兵庫、政友）、安達謙蔵（熊本、民政）らに当選の祝電を打っている。24日、温は高知県公

会堂に行き、高知県農会及び3郡農会主催の農会事業研究会に出席した。25日も同公会堂にて開催の農業経営講演会に出席し、来会の220余名に対し、午前9時より午後4時半まで講演を行った。26日は安芸郡井ノ口村の山崎隆馬の農業経営（自作農、1町7反）を視察し、27日は宇治村の梅原寛の農業経営を視察して、午後4時室戸丸にて、大阪に向かい、翌28日午前6時大阪に着した。そして、神戸に行き兵庫県農会を訪問し、さらに園田村の松本種吉の農業経営を視察し、奈良に向かい、宿泊した。

3月1日、温は奈良県生駒郡山町に行き、同町公会堂における県農会主催農会幹部講習会に出席し、来会の120余名に対し、午前10時から午後4時まで農会経営について講義した。2日も午前10時より午後4時まで講義した。講義が理論的で且つ詳密にわたったためか、出席者が半数ほどに減っている。3日は奈良県高市郡畝傍町に行き、奈良県農事試験場にて開催の県農会主催農会幹部講習会に出席し、来会の320余名に対し、午前10時より午後4時半まで講義を行った。4日も同農事試験場にて午前10時より午後3時まで講義した。終わって、温はただちに名古屋に向かった。5日、温は名古屋市農会主催の講演会に出席し、来会の170余名に対し、午前11時より午後3時まで講演を行った。後、温は先月4日亡くなった三輪市太郎（衆議院議員、政友会）宅を訪問し、8時20分発にて帰京の途につき、翌日午前6時、東京に着した。

3月6日以降、温は種々業務を行った。7、8日は午後小作法案調査委員会の小委員会に出席、9日は終日在宅し、富民協会依頼の原稿（農業経営）の執筆、10日は出張中にたまった用務の処理、11日は午前は経営パンフレットの作成、午後は地租改正調査委員会の小委員会に出席した。また、この日、首相官邸における米穀調査会の幹事会に出席し、来る20日の米穀調査会の総会の準備を行った。12、13日は経営宣伝冊子の起稿、14日は正副会長と幹事会を開催、また、富民協会の原稿を執筆、15日は講農会の原稿の執筆等を行った。

3月16日、温は午後9時20分上野発にて、山形、福島県への出張の途についた。翌17日、温は午前7時山形市に着し、県農会に行き、県農会主催の農

業経営研究会に出席した。18日も同研究会に出席し、温が午前10時より午後2時半まで講演を行った。終わって、午後6時山形発にて福島県郡山市に向かい、午後11時20分郡山に着し、宿泊した。19日午前10時より郡山市公会堂にて開催の福島県農会主催の農業経営共進会授与式に出席し、温は午後2時より4時まで講演を行った。終わって午後5時9分郡山発にて帰京し、11時上野に着した。

3月20日午前10時より首相官邸にて米穀調査会の第4回総会が開催された。前田利定より特別委員会の報告がなされた。総会では阪谷芳郎（貴族院議員）が米穀需給会計の赤字を問題にして委員会案に「徹頭徹尾反対」を表明した⁶⁾。しかし、総会では特別委員会の原案通り可決された。この日の日記に「午前十時ヨリ首相官邸ニテ米穀調査委員会総会開催。午前中浜口総理議長、午後町田農林大臣議長。前田委員長ヨリ報告アリ。之ニ対シ、質問アリ。阪谷委員ヨリ反対意見アリシノミニテ、特別委員会案ヲ賛成ス。右ニテ終了、散会。時ニ午後三時。而シテ当委員会ハ継続ノ形トス」とある。

3月21日以降も温は種々業務を行った。21日は終日在宅し、帝国農会報の原稿（「基準米価の意義」）を執筆し、22日は朝鮮総督府の招待会が小挽町蜂籠にてあり、正副会長とともに出席した。それは、朝鮮米移入問題で、帝農側が移入制限を徹底的に主張せず、総督府に適當なる方策を任せられたことへの返礼のためと推測される。23日は帝国農会報の原稿を執筆し、24日は正副会長出席の下、幹事会を開催、25日は経営宣伝冊子の原稿の執筆等を行った。26日は「帝都復興完成祝賀式典」に出席し、温は昭和天皇の勅語に感激している。この日の日記に「帝都復興完成祝賀式典ニ列席ス。午前九時半ニ宮城前式場ニ着シ、陛下ノ出御ヲ待ツ。受招出席一万三千ト称セラル。十時三十分、天皇陛下式場ニ御臨幸。安達内相ノ式辞ノ次ニ、勅語ヲ給〔賜〕フ。玉音朗高明ラカニ拝聴セラレ、多大ノ感激ニ打タル。想起大正十三年皇太子殿下ニマシマシ、

6) 『米穀調査会議事録』第2巻、376～404頁。

トキ、御慶事ノ御祝賀ノ盛典ヲ当所ニ挙ケラレルトキノ御態度ト御玉声ト以後国会議院マテノ御態度等ヲ想起シ、国運隆昌ノ淵源ヲ感セラル」と記している。

3月28日、温は午後4時25分東京発にて静岡県へ出張の途につき、9時半着し、宿泊した。29日、温は教育会館にて開催の静岡県農会主催の農会技術者大会に出席し、来会の約200名に対し、午後2時間余り、農産物価格について講演を行った。翌30日午前9時帰京の途に着いた。

4月も温は種々業務を行い、また、よく出張した。1日は経営宣伝の「儲かる農業」の原稿を草了、2日は経営宣伝冊子の第2部の起稿、3日は八基村の渋沢虎次郎村長らが来会し、八基村調査の集計の協議、4日は経営宣伝冊子の原稿執筆等を行った。

4月4日、温は午後9時40分東京発にて愛媛への帰国の途につき、翌5日尾道経由で帰郷した。6日は終日在宅し、農産物価格構成の原稿を執筆した。7日は温泉郡農会、農事試験場、県庁を訪問し、所用をなした。

4月8日、温は兵庫県の各郡で開催の農業経営審査会に出席するために、午前10時高浜発にて神戸に向かい、この日は神戸に宿泊した。翌9日は西宮市公会堂に行き、武庫郡農会主催の第2回農業経営審査会に出席し、午後3時間ほど講演を行った。10日は午前7時50分神戸発にて印南郡に行き、印南郡農会主催の農業経営審査会に出席し、午後1時より4時まで講演を行い、終わって宍粟郡山崎町に行き、宿泊した。11日は午前10時山崎公会堂に行き、宍粟郡農会主催の農業経営審査会に出席し、午後1時より4時まで講演を行い、終わって神崎郡福崎町に行き、宿泊した。12日は田原村公会堂に行き、午前9時より神崎郡農会主催の農業経営審査会に出席し、午後講演を行った。終わって、加東郡滝野町に行き、宿泊した。13日は多可郡中町に行き、中村公会堂にて開催の農業経営審査会に出席し、午後講演を行った。14日は水上郡粟鹿村の村上定次郎氏の経営（5町7反、稲作、養蚕、養豚、養鶏、果樹、養鯉、蔬菜等）を視察し、終わって、城崎に行き、宿泊した。15日は美方郡村岡町

に行き、同小学校講堂にて開催の農業経営審査会に出席し、午後講演を行った。16日は養父郡八鹿町に行き、同公会堂にて開催の農業経営審査会に出席し、午後最後の講演を行った。終わって、午後6時八鹿町を出発し、姫路に出て、福岡県に向かい、翌17日午前7時下関につき、福岡県西芦屋に行き、野口恒樹氏の人物の調査をし、終わって、午後6時下関発にて帰京の途につき、18日午後6時東京に着した。連日の旅行のために温は疲労を感じている。

4月19日以降、温は帝農の業務や農政研究会の業務などを行った。19日は農業経営宣伝パンフレットの作成を行い、また、夜は芝公園水交社にて愛媛県人会総会があり、先の衆議院選挙で当選した代議士の祝賀会に出席した。20日は終日在宅し、原稿（農産物価格構成）を執筆し、21日は農業経営宣伝パンフレットの作成、また農政協会幹事会を開き、松岡勝太郎、原鉄五郎、菅野三津蔵らの出席の下、農政研究会組織の協議、22日は土井権大代議士を訪問し、農政研究会の件につき相談し、また、松岡、菅野と農政研究会設立の打ち合わせを行い、23日は川崎安之助代議士、ならびに八田宗吉代議士を訪問し、農政研究会の件について相談し、民政・政友会から11名ずつ招待し、矢作会長名で農政研究会創立の協議会を開くことを決め、翌24日午後5時より亀嶋町偕楽園にて農政研究会創立の協議会を開いた。出席者は東武、板谷順助、八田宗吉、高田耘平、東郷実、胎中楠右衛門、川崎安之助、西村丹治郎、村上国吉、土井権大代議士と松岡、原、菅野、そして温ら帝農幹事であった。25日は農業経営宣伝パンフレットの作成、また、夜は秋田県の地主視察団の懇請により農業問題の講話、27日は八田代議士の依頼により議会質問要項の作成を行い、また、原稿（農産物価格構成、資本主義生産と非資本主義生産の折衝）の執筆等を行った。28日は駒場に行き、実科の新入生歓迎会に出席、29日は原稿（農産物価格構成）を執筆、30日は八田代議士に農村問題に関する質問要項を渡した。

5月も温は帝農の業務を種々行い、出張もよくし、原稿もよく書き、さらに議会対策（浜口内閣下の第58特別議会、4月21日～5月13日）等、多忙で

あった。1日は議会に行き、民政党の村上国吉議員に会い、加藤知正議員（新潟県選出、政友会）提案の蚕業組合関係の法律案の否決を依頼している。なお、この日子算委員会があり、議員の乱闘騒ぎがあった。日記に「予算委員会ノ乱闘ヲ見ル、不相変低級者ノ少ナカラサルハ遺憾」と嘆いている。2日は農業経営改善の指導事例の原稿執筆等を行い、3日は議会に行き、耕地協会提出建議案の斡旋を行った。4日も原稿（資本主義生産と非資本主義生産の折衝）を執筆した。5日は小作法小委員会に出席、6日は議会に行き、柑橘同業組合の北米輸出に関する請願書提出に関し、各代議士への働きかけを行った。7日は養蚕経営様式の修正、8日は農業経営改善指導事例の手入れを行った。9、10日は第1回蚕業委員会を帝農仮事務所にて開催し、「刻下蚕糸業の難局に対し養蚕業者の執るべき方策に関する件」等を協議し、生産に関しては極力自給自足主義を採り、優良繭の安価生産を図ること、販売に関しては共同販売、乾燥倉庫を利用すること、政府に対しては養蚕資金として低利資金の融通を図られたきこと、等を決議した⁷⁾。11日は終日在宅し、原稿を執筆、12日は駒場へ行き、実科の会合に出席、13日は経営宣伝の冊子の原稿、また、富民協会依頼の原稿「農村ノ行詰リヲ如何ニ打開スル」の執筆、14日は農林省の第1回米生産費調査研究会（米穀調査会の決議に基づき米穀法の発動に必要な米価の最高最低基準調査のために省内にもうけられたもの）に出席した。

5月14日、温は午後10時半上野発にて岩手県に出張の途につき、翌15日午前10時盛岡市に着した。温は県農会にて開催の郡市農会職員協議会に出席し、午後2時間農業経営根本思想原理について講演を行った。16日は岩手郡大更村に行き、佐々木仁太郎氏の農業経営を視察、17日は和賀郡更木村の斎藤四郎兵衛、二子村の渡邊萬之丞氏の経営を視察、18日は中内村大字小通の共同経営を視察し、午後6時土沢発にて帰京の途につき、翌19日午前7時上野に着した。

7) 『帝国農会報』第20巻第6号、昭和5年6月号。

5月20日は農林省にて開催の米生産費研究会に出席。21日は午後溜池での大日本蚕糸会の蚕糸業研究会に出席した。22日は帝農事務所移転の準備を行い、また、夜は在京評議員会を開催し、桑田、山口氏出席の下、上棟式の協議等を行った。23日は帝農の新事務所（麴町区丸の内3丁目1番地）に行き、机の配置等を決め、また新事務所小平蚕糸局長と養蚕組合法の件について意見の交換を行った。

5月24日から帝国農会は芝公園協定会館内の仮事務所を廃止し、丸の内の新事務所に移転し、活動を始めた。25日は地租改正委員会を開き、小委員会案を可決した。26日は全国評議員会を開催し、硫安問題について農林大臣、大蔵次官、商工次官を訪問し、反対の陳情を行った。27日、帝農は帝国農会事務所新築落成式を新館大講堂において、各界関係者220余名の出席の下、「盛大」に挙行した⁸⁾。また、この日、矢作会長は全国評議員を帯同して浜口首相を訪問し、硫安問題について反対の陳情を行った。28日は午後5時より中央亭にて二八会を開催し、産業組合の千石興太郎らと意見の交換を行った。

5月29日から3日間、帝農は事務所にて道府県農会幹事主任技師協議会を開催した。協議事項は、1. 農会の事業進展に関する件、2. 出荷団体の統制に関する件、3. 農業経営調査に関する件（米生産費調査の調査農家の拡張、養蚕経済調査の新設）、であった。1は高島幹事が、2は吉岡幹事が、3は温が提案説明した⁹⁾。初日以来会議の雰囲気は「異様」で、3日目の31日に、道府県の一同から帝農への不満が噴出した。内容は不明だが、おそらく昭和農業恐慌対策についての対策・対応が生ぬるいこと、また、農会技術員の待遇向上問題への取り組みへの批判・不満と思われる。この日の日記に「道府県農会職員会最終日。…終ツテ、一同秘密会ノ意ニテ居残り、帝国農会ニ対シ不満ヲ述ヘ、協議ノ結果、会長、各幹事ト懇談スルコト、シ、永島、内藤、西垣、大石、麦生諸君ヨリ忠告的意見ノ陳情ヲナシ、会長ヨリ温顔ヲ以テ積明的意見ノ

8) 『帝国農会報』第20巻第7号、昭和5年7月号。

9) 同上。

陳情アリ。自分ヨリモ所見ヲ述ヘカケテ、初日以来異様ノ空気漲リシモ、漸ク大部分消散サレ、六時四十分散会」とある。

6月も温は種々業務を行った。1日は日曜日で著書代金の整理、請求、銀座倶楽部で碁等、2日は帝農の新事務所の一般参観日で、温は受験勉強中の慎吾にも参観させた。3、4日は諏訪原新田の共同経営の執筆等、5、6日は高松部分共同経営の執筆等、7日は共同経営冊子の原稿の手入れ等、8日は蚕糸業に関する論文の執筆等を行った。また、この日、妻のイワから親戚の永木又市（石井村の収入役）の公金横領疑獄事件が発生し、すぐ帰れとの電報を受け取っている。9日は米生産費調査様式の作成等、10日は優秀なる共同経営のパンフレットの印刷指示、米生産費調査の注意等を行った。

6月10日、温は午後9時40分東京発にて永木の件にて帰郷の途につき、翌11日尾道経由にて午後7時高浜に着き、9時過ぎ帰宅し、ただちに親族会議を開き、協議し、また、12日親族会議を開き、結局、親類で尻拭いすることを決め、翌13日、温は松田石松村長宅を訪問し、その顛末を伝え、落着となった（後述）。

6月14日、温は午前11時高浜発にて帰京の途につき、翌15日午前8時半東京に着し、9時帰宅した。以降、種々業務に従事し、また、原稿を書いた。15日は原稿（蚕糸界の割拠云々）執筆、16日は米生産費調査拡張の件の起草、17日は共同経営の小冊子の原稿の補足等、18日は経営主任者協議会の協議事項の起草等、19日は養蚕経済調査様式の手入れ等を行った。20日は正副会長出席の下、経営調査主任会についての協議等、21日は養蚕経済調査様式の手入れ等、23日は母校問題で文部省の赤間局長を訪問した。また、夜6時より在京の帝農評議員会を開催し、岡本、加賀山、池沢委員の出席の下、道府県農会幹事主任技師協議会の決議問題、米買上げ問題等を協議した。浜口内閣の米買上げ説については形勢を見ることにした。この日の日記に「在京評議員会…。岡本、加賀山、池沢三氏ト正副会長出席…。職員会決議ノ報告及処理問題、米買上問題ニツキ協議。政府ノ米買上説ニ対シ、沈黙ヲ以テ形勢ヲ観察ス

ルコトニ決ス」とある。24日は米生産費調査集計様式の作成を行い、午後5時からは東京ステーションホテルに行き、全国町村長会幹部主催の農村問題研究会に出席し、原熙、那須皓、小野武夫、小平権一等とともに温が一場の講話を行った。25日は経営主任者協議会の準備等を行った。26日、温は腸を痛め、27、28日と欠勤している。28日は日曜日で自宅で、講農会報の原稿「基準米価と生産費」の執筆等、30日は出勤し、経営主任者協議会の準備等を行った。

7月も温は種々業務を行った。1日は滋賀県農会副会長の松原五百蔵が来会し、農村の危機打開についての帝農に対し強硬な進言があり、温が対応した。2日は経営主任者協議会の準備等、3日は郡市町村農会技術者講習会の協議等、5日は経営主任者協議会の準備等、6日は矢田村の基本調査の編集等を行った。

7月7日から5日間、道府県農会農業経営農家経済調査主任者協議会を開催した(～11日)。このうち、8、9日は温が議長を務め、米生産費調査の拡張、養蚕経済調査様式、農家経済調査様式の変更等について協議した¹⁰⁾13日は矢田村基本調査の編成、14日は八基村基本調査の資料検閲等、15、16日は米生産費に関するパンフレットの作成等を行った。17日は時局対策協議会の準備を行った。温が提案し、各幹事が同意した。「明日開催、時局対策協議会ニ対スル幹事側ノ意見ニ付、協議ス…。自分ノ所見ニ対シ、各幹事同意ヲ表ス」。

7月18日に帝農は時局対策協議会を開催した。岩手の福士進、長野の伊藤千代秋、愛知の松山兼三郎、兵庫の長島貞、広島 of 麦生富朗(いずれも各県農会幹事)らが出席し、農村不穏の状況が報告され、養蚕県の長野県は「尤モ不穏」であった。そこで、刻下農村の深刻な不況に鑑み、来る29、30日の両日、道府県農会長会を開催することを決めた。19日は米生産費問題の研究、20日は矢田村基本調査、21日は農界時報の原稿の執筆を行い、また午後5時より

10)『帝国農会報』第20巻第8号、昭和5年8月号。

在京評議員会を開催し、八田、池沢委員出席の下、道府県農会長会開催の協議を行った。22日は赤坂三会堂における全国町村長会主催の道府県町村長会（22～23日）があり、出席し、農村救済対策を協議した。各町村長の大勢は官吏の俸給減額、恩給改正を求めている。23日は農界時報の原稿の執筆を行った。また、この日来る府県農会長会議への提出議案を高島幹事が作成したが、温は不満を感じている。「府県農会長会議提出参考案…高島幹事作成。不満ヲ感ス」。24日は全国町村長会の福沢泰江、福井清造が来会し、農家の負債償却問題について協議に来ている。この日の日記に「全国町村町会ノ福沢泰江君、福井君来会…。農家ノ負債償却問題ニ付協議ヲナス」とある。町村長会は農家負債問題を重大視していたことがわかる。25日は帝農幹事会を開き、府県農会長会提出議案の協議等、26日は農界時報の原稿の執筆等、27日は尊農雑誌の原稿執筆等、28日は道府県農会長会議の準備等を行った。

7月29日から3日間、帝国農会は、刻下の農村不況対策を協議するために道府県農会長会議を開催した。ところが、矢作会長不在のために不満が出た。また、1日目に帝国農会の協議案以外に、関西2府17県の農会役職員協議会（7月25～27日、島根県農会主催で開催）における農村時局問題に関する決議（農村の不況対策－低利資金の融通、農産物の価格維持、農家負担の軽減、農業経営の改善、等）と関東6府県の緊急協議事項（全国郡市町村農会長会議を開催せよ、等）が出された。下からの突き上げであった。29日の日記に「道府県農会長会議。農村不況ノ打開策講究ノタメ。矢作会長不在、安藤副会長司会。会長不在ニ対シ不平多シ。高田政務官、石黒局長、村上農政課長出席。参考案トシテ関西府県農会聯合会議ト関東六県ノ決議ト帝国農会案ノ三案出ツ」とある。そして、協議事項が委員会に付され、秋田県の池田亀治が委員長となり、審議した。30日の午前に委員会、午後には本会議が開かれ、次のような「農村不況打開ニ関スル決議」がなされた。

「現下農村不況ノ深刻其ノ極ニ達シ、其苦悩悲惨ノ実情真ニ想像ノ外ニ在リ、若シ夫レ今ニ於テ急速之ガ対策ヲ講ジ救済ノ方途ヲ断行スルニアラズン

バ、単ニ農村農家ノ破滅ヲ将来スルノミナラズ、国家ノ憂患之ヨリ大ナルハナシ。依テ道府県農会長会ハ慎重審議ノ上、左記対策ヲ得タルヲ以テ政府ヘ要望スベキ事項ノ実現ヲ期スルハ勿論、各級農会協力一致シ現状打破ニ邁進セントス。

刻下ノ不況打開策

甲、政府に要望する事項

第1. 農家負担ノ軽減

- (イ) ロンドン軍縮会議ニ依リ生ジタル剰余金ヲ以テ先ヅ農家負担ノ軽減ヲ図ラレタキコト
- (ロ) 根本的行政整理ヲ断行シ、国民一般負担ノ大軽減ヲ図ラレタキコト
- (ハ) 税制ノ根本的整理ヲ断行シ、国税及道府県税ノ改廃ヲ行ヒ負担ノ軽減ヲ図ラレタキコト

第2. 農村金融ノ改善

- (イ) 農業者ノ生産資金並ニ農産物ニ対シ一層多額ノ低利資金ヲ最モ簡易ナル手續ニ依リ迅速ニ融通スル途ヲ講ゼラレタキコト
- (ロ) 農家負債ヲ整理セシムル為メ適切ナル方策ヲ樹立セラレタキコト
- (ハ) 不動産ノ資金化ニ関シ適切ナル方法ヲ講ゼラレタキコト

第3. 米価ノ維持

米価対策ハ根本的ニ講究セラル、処ナリト雖、現下ノ作況ニ照シ往々暴落ノ徴ナシトセズ。依テ此際買上資金ノ充実ニ善処シ、新穀出廻期ニ至リ生産費ヲ基調トシテ大量ノ買上ヲ断行セラレタキコト

第4. 繭価ノ維持

- (イ) 繭糸政策ヲ確立シテ繭価維持ノ恒久策ヲ樹ツルト共ニ養蚕地方応急対策トシテ本年夏秋蚕飼育者ノ不安ヲ一掃スル為メ夏秋蚕繭

ノ最低価格ハ糸価ト均衡ヲ失セザル様相当施策ヲ講ゼラレタキ
コト

(ロ) 乾燥共同保管ニ対シテハ速ニ低利資金ヲ融通シ、若シ三拾掛ヲ
下ルガ如キ場合ニハ乾燥保管奨励金ヲ交付シテ救済ヲ図ラレタ
キコト

第5. 其ノ他ノ施策 (注, 略)

乙, 農会自ラ行フベキ事項

1. 農村ニ於テハ此際進デ經濟緊縮ノ実ヲ挙ゲ農家ヲシテ左ノ方法ニ
依リ特ニ自給主義ニ則ラシム様努ムルコト

(イ) 農業生産ニ関シテハ勤勞主義ニ依リ品質ノ向上, 生産費ノ低減
ニ極力留意スルコト

(ロ) 余剩勞力ヲ利用シテ商品価値アル副業品ノ生産ヲ奨励スルコト

(ハ) 農村生活並ニ農業経営上ノ必要品ハ出来得ル限り自給品ヲ使用
シ冠婚葬祭等ノ冗費ヲ省キ, 極力物品購入ニ依ル現金支出ヲ節
約スルコト

2. 農家生産物ニ対シテハ左ノ点ニ留意スルコト

(イ) 生産ノ統制ヲ図ルコト

(ロ) 出荷団体ヲ設立普及セシメ共同販売ヲ励行スルコト

(ハ) 海外販売ノ拡張ヲ図ルコト

3. 農村計画ノ樹立ノ促進ニ努メ其ノ実行ヲ図ルコト

4. 各種産業団体トノ連絡提携ニ努ムルコト

実行方法

1. 内閣総理大臣及関係各大臣, 両政党本部ヲ訪問シテ陳情スルコト

2. 各道府県農会ハ郡市町村農会長會議ヲ開キ, 決議事項趣旨ノ徹底ニ
努ムルコト, 其ノ際ニハ帝国農会より出席スルコト

3. 今後ノ推移に依リ, 必要ナル場合ハ全国農会大会ヲ開催スルコ
ト」⁽¹⁾

そして、この決議事項実現のために、委員を2組に分け、農林大臣ならびに内務大臣を訪問、陳情した。温は内務大臣組を率い、陳情に行った。30日の日記に「道府県農会長会議。午後一時半マテ委員会。直ニ本会議ヲ開キ、要項ヲ決議シ、十二名ツ、二組ノ委員会ヲ組織シ、一組ハ農林大臣ヘ…、右ハ副会長引率…。安達内相ハ自分案内。午後四時半ヨリ面会。六時過マテ落付テ会談。各委ニ其府県ノ農況等ヲ聞き歓談ス。流石ニ党出身ノ政治家ナリ」とある。翌31日にも道府県農会長を2組に分け、総理大臣および民政党、大蔵大臣および政友会を訪問し、陳情した。午後4時再び本会議を開き、互いに報告し、引き続き、運動の進展を図る為に実行委員7県を選出して、散会した。

温は、道府県農会長会議が終わるや、31日の午後9時25分東京発にて、和歌山、奈良、京都、神戸、九州への出張の途についた。誠に多忙であった。

8月は出張、講演の連続であった。1日、温は午後0時過ぎ和歌山伊都郡橋本町に着き、翌2日、温は伊都郡九度山町に行き、同小学校にて伊都郡農会主催の農村不況対策懇談会に出席し、来会の80余名に対し、午前には質問に答え、午後は3時間ほど政治的自覚について講演を行った。3日は奈良県生駒郡矢田町に行き、永野捨吉村長らに会い、矢田村基本調査の前途の計画について協議した。4日は京都に行き、宿泊し、5日は午前6時6分京都発にて宮津に行き、宿泊した。6日、温は天橋立の松原内で京都府農会主催の農会技術員講習会（6日より10日まで）に出席し、来会の150余名に対し、午前9時より12時20分まで農業経営について講義を行った。翌7日も午前9時より10時半まで講義した。終わって、文殊院を参詣し、京都に戻り宿泊した。8日は午前6時20分京都発にて神戸に行き、兵庫県農会にて開催の郡市農会長会および技術者会議に出席し、温が道府県農会長会議の決議事項について説明を行った。このとき、矢作会長欠席の質問を受け、温は答弁に窮している。終わって、午後7時53分神戸発にて下関に向かい、翌9日午前7時30分下関に着し、8

11) 『帝国農会報』第20巻第9号、昭和5年9月号。

時50分門司発にて諫早に下車し、雲仙に行き、宿泊。10日は諫早から佐世保市に行き、日宇の久田氏の経営を視察し、さらに東彼杵郡中里村の吉田氏の経営を視察した。その後、温は同村小学校にて東彼杵郡農会主催の講演会に出席し、来会の300余名に対し、午後1時半より3時まで講演を行った。終わって、午後3時50分佐世保発にて長崎に着し、大村町の旅館に宿した。翌11日、温は午前10時より女子師範学校にて開会の郡市町村農会役職員会に出席し、「現下農村ト農会ノ使命」について2時間ほど講演した。終わって、シーボルトの住宅跡を見学している。12日も同役職員会に出席し、渡邊侯治が講演し、農会大会に移り、宣言、決議がなされている。その夜懇親会に出た後、11時発にて兵庫県に向かい、翌13日午後6時40分赤穂郡上郡町に着し、宿泊。14日、温は午前9時より上郡農学校同窓会主催の講演会に出席し、200余名の学生等に対し、12時15分まで農業経営より見たる農村経営と題して講演を行った。終わって、午後1時40分発にて愛媛への帰郷の途につき、この日は尾道にて宿泊した。

8月15日、温は午前5時30分発の第11相生丸にて松山に向かい、正午前石井の実家に帰宅した。帰ってみると、旱害がひどかった。日記に「本年ノ旱害ハ北土居尤モ甚シ。七月一七日ガ最後ノ挿秧」とある。16日は親戚の北土居の越智家を見舞い、また、信用組合の石井信光組合長、県農会等を訪問。17、18日は終日在宅し、来訪者（伊予新報の三好英雄、野口文夫）に接し、また、原稿の執筆等を行った。

温は帰郷してからも講演などで多忙であった。19日から温は東予諸郡に講演のため出張した。この日は午後4時松山発にて宇摩郡に行き、三島町に宿泊し、翌20日午前8時半より、宇摩郡農会、同教育部会、同神職会聯合主催の講習会に臨み、来会の200余名に対し、温は山崎延吉（農民道）、大川周明（日本国体論）とともに講演（農村指導原理）を行った。21日も午前中、温は家族経営の特徴と改良の目標と題し講演した。終わって、温は午後1時発にて新居郡西条町に向かい、新屋に宿泊し、翌22日、温は西条町での県農会主

催の農業経営研究会に出席し、経営改善上の問題について講演を行った。しかし、一切質問もなく、意見も出ず、研究会として問題を感じている。午後3時に終わり、5時発にて周桑郡に向かい、丹原の大寿館に宿泊した。23日は丹原での県農会主催の農業経営研究会に出席し、来会の30数名に対し、講演を行った。新居郡と同様一切質問も出なかった。午後3時に終わり、松山に帰宅した。24日は終日休養した。25日は親戚の永木又市の公金問題について、勧業銀行から借り入れることを決めている。26日正午、温は自動車にて伊予郡に行き、同郡農会主催の実行組合長会に出席し、午後1時より3時10分まで講演を行った。そして、松山に帰り、さらに香川県高松市に向かい、午後9時高松に着し、宿泊し、翌27日、香川県農会主催の不況対策についての郡農会長協議会に出席した。農村不況の真相の調査とそれへの対策を講じることを協議した。しかし、温は県農会当局の認識低く、方針徹底せずとの感を抱いている。日記に「香川県農会主催不況対策…、郡市農会長協議会ニ出席。県農会ニテ二市七郡ヨリ十六人程出席。農村不況ノ真相ノ調査ヲナシ、夫ニヨリ対策ヲ講スルコトヲ決ス。郡内務部長出席。郡農会当局ノ眼界低ク、平素ノ指導方針根本ニ徹セズ…ノ感アリ」。終わって、午後8時半発の厦門丸にて、大阪に行き、上京の途につき、翌28日午後8時帰京した。以後、月末まで書類整理、矢田村基本調査の編集等を行った。

9月も温は種々業務を行った。1日は正副会長出席の下、幹事会を開催、2日は矢田村職業調査の再調べ等、3、4日は農界時報の原稿執筆等、5日は正副会長出席の下、幹事会を開催、生産費の諸負担、自給肥料評価等を議論、6日は原稿（農村不況打開について）の執筆を行い、また、母校問題で大蔵省を訪問した。7日は秋田県の講習筆記の手入れ等をした。

9月8日、全国町村会長の福沢泰江が帝農事務所に来会した。深刻化している農家負債問題についての協議のためであった¹⁾。温は福沢と農家負債整理問題について協議し、そこで、10日に負債整理問題の協議会を開くことを決めた。

当時、農家の負債問題が社会問題化していた。帝国農会は昭和4年6月末現在の農家負債調査の中間報告を『帝国農会報』の昭和5年8月号で発表した。それによると、全国農家の負債額は40億円以上、1戸平均で719円（全国農家556万戸として）であり、長野県農会の調査では1戸平均で868円で、全国農家戸数に乗ずれば48億円であった¹³⁾。しかも、個人貸付の利息は1割以上で高利であった。昭和5年にはさらに負債額が増大していたと推測される。農家負債問題は深刻な問題であり、その整理は温の年来の主張でもあった。9月8日の日記に「福沢泰江君来会…。農家負債整理問題ニ付協議…。来ル十日午后二時ヨリ四時、帝農ニテ協議会ヲ開クコトニ決シ、千石君ニ通ス。今回ハコノ三、四人ニテ協議セントス…。自分年来主張ノ問題カ漸ク社会ニ認メラル。正副会長、吉岡幹事、自分ト協議。増田、高嶋両君不在」とある。

9月10日午後1時より帝農事務所にて農家負債整理に関する帝国農会、産業組合中央会、全国町村長会3団体幹部の協議会が開催された。帝農から矢作、安藤の正副会長、全国町村長会から福沢泰江と伊東、産業組合中央会から千石興太郎が出席し、農家負債整理問題の協議を行い、成案を得た。この日の日記に「午後一時ヨリ正副会長、福沢、伊東、町村長会側ヨリ、千石君ト会合…。農家負債整理案ニ付、協議シ、或成案ヲ得タリ」。

農家負債整理の成案は、1. 町村に農家負債整理委員会を設置す。町村長を委員長とし、町村農会長、産業組合長又は専務理事、学校長、青年団長方面委員及び其他適当なる者を以て委員となす事。2. 負債整理は負債整理委員会に於て立てたる確実なる整理案を遵守する見込確実なるもの限りてこれを行う事。3. 不動産抵当負債者に対しては其負債者の連帯責任の組合を作らしめ特

12) 全国町村長会は8月25日に臨時総会を開き、不況打開に関し次のような決議をしていた。1. 国民負担の軽減を図ること（公務員の減俸、恩給の改正、行政整理）、2. 国民生活の安定を図ること（道路、港湾、河川の改修、農村漁村民の負債整理、失業救済等）、3. 教育費の削減、4. 各種産業団体の統制、産業振興（『帝国農会報』第20巻第10号、昭和5年10月号）。この決議を受け、福沢会長はその相談、協議のために、特に負債整理の協議のために帝国農会を訪れたものと考えられる。

13) 『帝国農会報』第20巻第8号、昭和5年8月号。

殊銀行に就き借換をなさしむる事。4. 無担保負債に対しては負債整理を目的とする保証責任の信用組合を部落内に設立せしめ、其信用組合を経て負債整理をなさしむるか又は既設の町村の産業組合に依りて負債を整理なさしむる事。5. 政府は農村負債整理の爲め特殊銀行、産業組合中央金庫に低利資金を貸付けする事。6. 政府は如上目的を以て特殊銀行及び中央金庫の発行する債券の保証をなす事。府县市町村は罹災救助基金、基本財産又は其他の資金を以て如上の債権に応募する事。7. 前項の資金のみにて不十分なる場合に於ては府県は府県債を募集して特殊銀行、中央金庫又は産業組合に資金を供給し、負債整理の爲め貸付けをなさしむる事。此場合に於ては政府は利子の補給をなす事。8. 旧債整理に依りて借換をなしたる債務者の支払う利息は5分以下とする事。9. 旧債整理に依る負債は年賦又は定期償還によることとし、不動産抵当負債の年賦償還期間は30ヵ年以内、其他の負債は5ヵ年以内の償還とし負債整理委員会の認定に依りて更新を許す事、であった¹⁴⁾すなわち、市町村が負債整理組合を作り、それに特殊銀行や産業組合中央金庫が低利資金を融資し、それに対し、政府が利子補給するというものであった。これは、後、昭和8年の斎藤実内閣下の第64帝国議会に「農村負債整理組合法」として出され、可決され、3月29日公布されるが、その原案がこの9月10日の3団体会議にあったといえよう。その意味で温の役割大といえよう。

9月11日から帝国農会主催の郡農会職員講習会が帝農大講堂で開催された(～19日)。11日の開会日に温は午前10時より12時20分まで農業経営について講義した。12日は実業日本依頼の原稿(農村不況打開の自力対策)を執筆し、また、正副会長出席の下、幹事会を開き、米価下落防止策、繭価維持対策、明年度予算編成方針について協議した。13日は母校問題で大蔵省を訪問、14日は経済評論依頼の原稿(農家負債整理問題の重大性)の執筆等を行い、15日は正副会長出席の下、幹事会を開き、昭和6年度予算の編成方針を

14) 『帝国農会報』第20巻第10号、昭和5年10月号。

協議し、負担1割3分減を目標とすることに決し、翌16日も幹事会を開き、予算編成をした。17日は母校問題で、原鉄五郎らと協議し、18日は全国町村長会の松村氏とともに農林省に出頭し、農家負債整理問題の説明を行った。19日は幹事会を開き、帝農総会への提出建議案について協議、20日は内務省を訪問し、次田地方局長に面会し、府県が農会への補助を大削減していることに對し、希望を述べている。21日は慎吾とともに病院に行き、診察を受け、22日は帝農にて小作法案調査小委員会を開き、岡本、町田、池沢委員ら出席の下に協議し、また、在京評議員会を開催し、明年度予算編成について協議した。23日は小作調査委員会を開催し、布施、多田、町田、池沢、池田、南、月田、小池委員ら出席の下、逐条審議を行い、原案を決定した。24日は矢田村基本調査の編集を行った。25日、全国評議員会を開催し、明年度予算、事業計画を協議した。予算は1割減額したが、異議なく了承され、26日も全国評議員会を開催し、提出議案が全部了承された。また、農会記念日を4月11日とすることも決定した。27日は、全国町村長会の正副会長らが来会し、地租延納問題を協議し、また、農家負債問題で、3団体の会合を10月24日に行うことを決めた。28日は終日在宅し、農家負債整理問題の原稿を執筆した。

9月29日午後1時より首相官邸にて米穀調査会の幹事会が開催された。去る3月20日の米穀調査会第4回総会での答申「米価基準を設定する事は緊要なりと認む、依って政府は速やかに米穀法の発動に必要な米価の最高最低の基準を調査決定すべし」にもとづく米価基準のための幹事会であった。温は農林省側の率勢米価説に對し、生産費説を主張した。日記に「午後一時ヨリ首相官邸ニ米穀調査幹事会ヲ開ク。率勢米価基準ニ對シ生産費基準説ヲ主張ス」とある。

10月、米価が大暴落し、昭和農業恐慌が深刻化した。温は米価対策のために種々活動し、また、よく地方に出張した。また、米穀調査会にも出席した。また、月末には帝農総会があり、実に多忙であった。1日は経営調査用帳簿様式の検討を行い、また帝農幹事会を開催、2日も経営調査用帳簿様式の検討を

した。

10月2日、昭和5年産の米第1回予想収獲高が発表された。6,686万7,530石で、前年産の12.3%増、前5ヵ年平均の12.5%増¹⁵⁾で、意外の大豊作で、米価大暴落が予想された。実際米価が暴落し、以降、昭和農業恐慌が深刻化することになる。各新聞社より応急対策の問い合わせもあった。そのため、翌3日、帝農は正副会長出席の下、幹事会を開き、米価対策を協議した。そこで、政府に対し、政府所有米の外国への輸出、低利資金の供給を求めることを決めた。この日の日記に「昨日発表、米作第一回予想が予期以上ノ大增収ノタメ、農林省ニモ対策協議会カ開カレ、新聞記者ハ交々来ツテ対策所見ヲ求メラレ、農会ニテモ、午后正副会長、幹事会ヲ開キ、対策協議会ヲ開キ、先日決議ノ外ニ以上ヲ加フ。一、政府ノ所有米ヲ外国ニ売出スコト。一、低利資金ヲ増シテ二百万石以上農家ニ於テ来年マテ持越計画ヲナスコト」とある。4日も温は矢作会長と米価対策の協議を行った。5日は終日原稿（東京日々、農民新聞）を執筆した。6日は、帝国農政協会常務委員会を開催し、松岡、池沢、原、松山、菅野ら出席の下、今後の方針について協議した。7日は農政協会常務委員会と府県農会長会議運動委員会との連合の会議を開き、松山、松岡、都木、中村、石坂、大島、麦生、池沢の各委員、帝国農会より矢作、安藤正副会長及び吉岡、高島、増田、温の幹事が出席し、米価対策について協議し、次のような「米価対策に関する要望」を決めた。1. 政府所有米は海外に輸出すること、2. 米穀法の運用により速に300万石の米穀買上げを行うこと、3. 農業倉庫又は政府の指定する倉庫に米穀を預託したる者に対しては低利資金を融通して年内の季節的調節を行はしむること、4. 農家の所持する新穀200万石を次年度に持越さしむるために特別低利資金を融通して農業倉庫其他政府の指定する倉庫に保管せしむること、5. 米穀法の運用に依り米穀の輸入関税引上を行うこと（百斤1円を2円とす）、6. 朝鮮米の月別平均移入を励行すること、7. 朝

15) 『帝国農会報』第20巻第11号、昭和5年11月号。

鮮における粟の輸入関税引上を行うこと、等々¹⁶⁾そして、午後町田農相を訪問し、陳情した。

さて、10月の稲の収穫期を迎えて、地方農会では米価暴落の危機感が募り、各地で大会があい継いだ。8～9日に東京にて関東、東北、北海道農会聯合協議会、14～16日に高知市にて四国4県農会聯合協議会、18～19日に神戸にて関西2府17県農会聯合協議会、21～23日に長崎にて九州各県農会聯合協議会、24～25日に金沢市にて北陸4県農会聯合協議会が開催され、大いに世論を煽り、喚起した。温も東京の会議に出て、また、神戸、長崎に出張した。

10月8、9日の両日、東京府農会主催の北海道、関東、東北道府県農会聯合協議会が帝農事務所にて開催され、米価暴落、その他刻下農村不況対策について協議され、温は正副会長とともに出席した。この会議で、米価問題について臨時議会を召集せよの議論も出た。9日の日記に「関東々北北海道農会聯合会出席。米価問題ニ対シテ臨時議会ヲ召集シ、米穀法ヲ改正シ即急高価買上ヲナスヘシナドノ珍議論（福島）モ出タリ」とある。また、この日、温は矢作会長宅を訪問し、会長に農業恐慌対策のためにもっと運動するようにとの反省と各幹事をもっと鞭撻するよう促している。「夜、矢作会長宅ニ参向。帝農内部改造及地方農会ト帝農トノ関係ヲ話シ、一ハ反省ヲ促シ、一ハ幹事鞭撻ヲ促ス」。10日は帝農にて第2回蚕業委員会を開催し、帝国農会総会に提出する建議案等を協議した。養蚕県から強硬な意見が出ている。「蚕業委員会。九州四国ハ欠席、其他出席。長野ノ倉沢氏、山梨ノ土屋氏等ヨリ強硬論出ツ。午后、二部委員会ニテ審議シ、五時議了、閉会」。11日は米生産費計算様式の訂正、12日は八基村基本調査の編集等、14日も八基村基本調査の再調べ、また、母校問題で大蔵省と文部省を訪問した。

10月15日、米穀調査会第5回総会が午後1時より首相官邸にて開かれた。前回の総会（3月20日）での答申が、米穀法発動の基準に関し、政府におい

16) 『帝国農会報』第20巻第11号、昭和5年11月号。

て速やかに調査決定せよ、ということであったため、浜口内閣は農林省内で検討し、参考案を作成し、この日、諮問第2号として問うた。諮問第2号は、「米穀法ニ依リ米穀ノ市価ヲ調節スル為米穀ノ買入又ハ売渡ヲ為ス場合ノ基準トナルベキ最高及最低ノ価格ハ左記三項ヲ基礎トシテ之ヲ決定セントス。其ノ可否如何。記 米穀生産費、家計費、米価指数ノ物価指数ニ対スル割合（米価率）ノ趨勢ニ依リ算出シタル米価。右貴会ニ諮問ス」であった。農林省農務局作成の参考案（基準価格要綱）は、最低価格は米穀生産費と率勢米価下2割の価格との間に於て適当と認める価格を以て決定する、最高価格は率勢米価上2割の価格と家計費中米代に支払いうる価格との間で適当と認める価格を以て決定する、というものであった。この日の午前に米穀調査会の委員である山田 歙、山内範造が来会し、農業関係者の態度を協議し、午後の総会に出席した。総会では諮問第2号と参考案の説明があり、質疑に入った。この日の日記に「午後一時ヨリ首相官邸ニテ米穀調査会総会。矢作会長、山田、山内、四人ニテ出席ス。浜口首相挨拶及議長。基準米価案（第二諮問）ニ付、質問ニ入ル。本日ニテ終ラス、明日モ総会継続トシテ散会」とある。総会では、矢作栄蔵委員が、率勢米価下2割を基準とすることに、「不満足」を表明した。16日も米穀調査会総会（第6回）が開かれた。この日、東郷実委員が率勢米価を基準とすることは生産者にとって「非常ナ不利」ではないかと指摘していた。答弁は専ら農務局長の石黒忠篤幹事が行っていた。質疑が終わり、特別委員を選出し、そこに付託することになり、安川雄之助、山田道兄、横山勝太郎、三橋信三、林市蔵、河田嗣郎、東郷実、小川郷太郎、矢作栄蔵、前田利定、小阪順造、西村丹治郎、山田 歙、橋本伝左衛門、上山満之進の15名が選出され、委員長に前田利定が選出されている¹⁷⁾

10月16日の夜、温は神戸市にて開催の関西2府12県農会聯合協議会（18、19日）に出席するため、出張し、翌17日午前11時12分三宮につき、

17) 『米穀調査会議事録』（第3巻）1～75頁。

長島貞兵庫農会幹事と打ち合わせをしている。18日、兵庫県農会事務所に開催の関西2府12県農会長会が開かれ、矢作会長とともに出席し、米価暴落、刻下農村不況対策について協議し、農家に1割貯蔵が決議されている。この日の日記に「兵庫県農会事務所ニテ関西二府十七県ノ農会長会ヲ開ク。米価低価対策…、不況対策ニツキ協議ヲナシ、重要ナル決議ヲナス。農家ニ対シ収量ノ一割以上ノ貯蔵ヲ強要スルヲ決議ス」とある。19日は高等女学校にて兵庫県農会主催の関西2府12県の農会大会が開催され、山脇延吉兵庫県農会長が議長となり、500余名が参加した。温も矢作会長も出席した。大会では「農村窮状」の叫びがあい継いだ。そして、政府に要求すべき事項として、政府所有米の海外輸出、300万石以上の米穀の買上げ、米穀運用資金の充実、低利資金の融通、朝鮮米の月別平均移入、米穀の輸入関税の引き上げ等を決議し、農会又は農家に於て行うべき事項として、米穀の平均売り、本年収穫高の1割以上を次年度に持ち越すこと等を決議し、実行方法として、政府、政党への陳情、全国農会大会の開催などを決議した¹⁸⁾。終わって、温は午後9時19分三宮発にて九州の各県における大会に出席するために長崎に向かった。

10月20日午後3時30分長崎に着き、森孝一長崎県農会幹事と打ち合わせをした。21日から九州各県農会役職員会（～23日）が開催された。21日、温は米問題について、中央及び関西農会大会の状況を報告している。22日も温は同大会、委員会に出席し、午後11時発にて帰京の途につき、24日朝8時半東京に着した。なお、温の留守中の10月22日、帝農は在京評議員会を開き、地方の農会の要望に応え、11月1日に全国農会長大会を開催することを決めている¹⁹⁾。

10月24日、首相官邸にて米穀調査会の第3回特別委員会があり、出席した。基準米価についての特別委員会は22日から開かれており、温は22、23日

18) 『帝国農会報』第20巻第12号、昭和5年12月号。

19) 増田昇一「農会の農村不況打開運動経緯」（『帝国農会報』第20巻第12号、昭和5年12月号）。

(第1, 2回)は出張のため出席できず、残念がっている。この日の日記に「首相官邸開〔催〕米穀調査小委員会(基準米価決定)ニ出席。二十二, 三日ハ不在ノタメ欠席, 遺憾。本日ニテ質問打切り…。十一月四, 五, 六日開会ヲ宣シ散会」とある。

10月25日, 帝農幹事会を開き, 来る帝農総会, 道府県農会長大会の宣言, 決議等を協議した。

10月26日は農村負債整理問題について, 帝国農会, 全国町村長会, 産業組合の3団体合が開催され, 出席した。午前10時から午後4時まで協議が行われたが, 成案が得られず, 帝農調査部で細目的案を作成することになった。この日の日記に「農村負債問題研究ノタメ出勤。副会長, 福沢泰江, 福井清造, 千石, 村上農政課長, ××事務官(産業組合), 小柳, ××会合。午前十時ヨリ午後四時過マテ意見ノ交換。結局成案等ハ得ラレス。調査部ニテ細目的案ヲ作成スルトシテ散会」とある。

10月27日は帝農の全国評議員会が開催され, 28日から4日間第21回帝国農会通常総会が帝農事務所にて開催された。1日目の28日午前10時33分より開会し, 矢作帝国農会長が議長となり, 開会を宣し, 帝農の会務の報告(吉岡幹事), 昭和4年度の収支決算等の報告(増田幹事)等があり, 午後町田農林大臣が臨席し, 告辞ならびに農林大臣の諮問案「農村不況ニ鑑ミ農家ノ採ルベキ方策如何」が出された。農林省の諮問案には大会出席者から種々意見が出された。この日の日記に「帝国農会通常総会。午後一時町田農林大臣臨席告辞ヲナス。農林省諮問案ニ対シ, 意見多シ。諮問案(現下ノ不況ニ対シ農業者トシテ取ルヘキ対策如何)」とある。2日目の29日に, 提出議案全部が説明され(増田, 高島幹事), 委員会に付託された。3日目の30日には各委員会が開催された。4日目の31日に委員会の報告がなされ, すべて可決された。

さて, この昭和農業恐慌下, 帝国農会総会で決議された諸建議は, 「米価政策ニ関スル建議」「農家負担軽減ニ関スル建議」「養蚕業基礎確立ニ関スル建議」「小麦, 大豆および澱粉ノ輸入税引上ニ関スル建議」「農家負債整理ニ関ス

ル建議」「中央卸売市場卸売人ニ関スル建議」「農家生産物輸出検査規則ニ関スル建議」「農会役員優遇ニ関スル建議」「農会記念日制定ノ件」であった。このうち、「米価政策ニ関スル建議」は次の如くであった²⁰⁾

「米価ハ未曾有ノ豊作其他ノ事由ニ依リ実ニ悲惨ナル低落ヲ為シ、農家經濟ヲ根底ヨリ覆シ、一般國民經濟上ニ及ボセル影響甚大ニシテ農村ノ困憊其ノ極ニ達シ農民ハ其ノ前途ヲ悲觀シ自己ノ職業ヲ呪ハムトスルニ至ル。實ニ農村ノ為テ国家ノ為深憂ニ堪ヘザルモノアリ。斯カル非常ナル時機ニ際シテハ農会ニ於テ農家ノ米穀貯蔵ニ極力努ムルハ勿論ナリト雖モ非常ナル決心ヲ以テ之ニ処スル方策ヲ講ズルニアラズムバ前途如何ナル事變ノ勃發スルヤモ計ラザル情勢ニアルヲ慮ル。政府ハ之ガ対策ニ関シ画策セラレツツアリト雖モ事態ハ一日ヲ争フノ急ヲ要スル場合ニ迫レリ。依テ政府ノ農民ヲ救済シ農村ヲ安定シ、延イテ社会全般ノ不安ヲ除ク為、速ニ左記ノ事項ニ関シ其ノ實現ヲ図ラレムコトヲ望ム。

甲、応急策

1. 政府ノ所有米ヲ海外ニ輸出スルコト
2. 米穀法ノ運用ニ依リ速ニ 300 万石以上ノ米穀買上ヲ行ヒ、更ニ米穀運用資金ノ充実ヲ図リ買上ヲ続行シ、府県別ニ割当テ生産者ニ優先権ヲ与フルコト
3. 年内ノ季節的調節又ハ新穀ヲ次年度ニ持越ス為、農業倉庫又ハ政府ノ指定スル倉庫ニ米穀ヲ寄託シタル農家ニ対シ低利資金ヲ融通シ且ツ持越米ニ対シテハ奨励金ヲ交付スルコト
4. 朝鮮米ノ月別平均移入ヲ励行シ、朝鮮ニ於ケル粟ノ輸入関稅引上ヲ行ヒ滿鮮国境ニ於ケル米穀ノ違法通過ヲ嚴重ニ監視スルコト

乙、恒久策

1. 米穀法ノ根本的改正ヲ行ヒ米穀生産者ノ安定ヲ期スルコト

20) 『帝国農会報』第 20 卷第 12 号，昭和 5 年 12 月号。

2. 内地ト朝鮮台湾トノ米穀政策ノ統制ヲ図ラレタキコト」。

この米価政策についての建議は、内地米の300万石の買上げや低利資金の供給を要求していたが、朝鮮米移入については、応急策は月別平均移入の励行にすぎず、恒久策でもハッキリと移入制限を提案しておらず、曖昧で微温的、妥協的であった。

11月も温は極めて多忙であった。1日から全国農会長大会を開催し、その運動に従事した。また、地方によく出張し、講演を行った。地方から帰ってきてからも種々業務を行った。

11月1日、帝国農会は帝国農政協会と共同で、午前10時より青山会館にて全国農会長大会を開いた。全国から2,000名以上も集まり、農業恐慌への危機感が大変強かった。大会宣言内容が朗読されるや、直ちに地方から反対、修正論が出て、なかなか議事が進まず、各県から委員を出し、大会宣言、決議の修正を協議することになった。結果は原案通りとなったものの、大会参加者の帝農への不満、危機感、熱気が伺われる。決議後、各県から2名の委員を選び、総理、大蔵省、政友、民政党を訪問し、陳情を行った。温は大蔵省と民政党组を率い、陳情した。この日の日記に「青山会館ニテ全国農会長会議ヲ開キ、米問題ヲ中心トセル当面ノ問題ニ付、大運動ヲナス。会者二千二、三百名…。前十時開会。会長推サレテ座長トナル。宣言ヲ朗読スルヤ、直ニ反対論、修正論起リ、議事進マス。終ニ福井甚三氏ノ修正ニヨリ、宣言ハ決議シタルモ、決議ハ修正論終ラス。結局一県二名ノ委員ニ託シ、別室ニテ修正(結局ハ原案)。(共同会場ニテハ演説)。右報告決議ト共ニ一府県二名ツ、ノ委員ヲ上ケ、二組トナリ総理ト政友会、大蔵ト憲政ニ陳情ス。前者ハ安藤副会長、後者ハ自分案内ス。井上蔵相ノ態度冷淡ニテ委員ノ心証ヲ害ス。民政党ハ加藤鯛一君ト山柁儀十君対応。一方大会ハ午后二時半閉会。会長ノ東道ニテ、一同明治神宮ニ参拝シテ散会ス」とある。

なお、この全国農会長大会での宣言は、「今春以来籾価ノ惨落ニ次グニ米価ノ暴落ヲ以テス。従来負担ノ過重ニ苦シメル農家ノ苦境実ニ言語ニ絶シ農村ノ

窮状其極ニ達ス。邦家ノ為真ニ痛嘆ノ至リニ堪エズ、此未曾有ノ難局ニ際シ、農家ハ非常ノ決心ヲ以テ自衛ノ策ヲ講ジ農会亦最善ヲ尽シテ之ガ打開ニ努ムルモ政府ニ於テ萬難ヲ排シ速カニ非常特別ノ対策ヲ断行シ以テ農村ノ危機ヲ救済スルニアラズンバ如何ナル事態ヲ誘致スルヤモ計リ知ルベカラザルモノアリ。若シ夫レ躊躇逡巡徒ラニ遷延スルニ於テハ更ニ全国農民大会ヲ開催シ、奮ツテ救済ノ世論ヲ喚起シ政治的ニ打開ノ方途ニ出デザルベカラズ。茲ニ全国農会長大会一致団結ノ下ニ其ノ目的貫徹ニ邁進セントス」というもので、さきの帝農総会の決議以上に表現が激しく、危機感を煽っていた。また、決議事項は「一、米価対策ニ関スル件。1. 政府ハ速ニ米穀ノ大量買上ヲ断行スルコト、2. 政府ハ農家ノ貯蔵ニ対シ低利資金ノ融通及奨励金ノ交付ヲナスコト、3. 政府ハ朝鮮台湾産米ノ移入ヲ統制スルコト、二、繭価対策ニ関スル件。1. 政府ハ繭取引方法ノ改善を助成スルコト、2. 政府ハ繭生産ノ調節ヲナスコト、3. 政府ハ生糸ノ滞荷処分ト販路拡張ヲ助成スルコト。三、農家負担軽減ニ関スル件。1. 田畑地租ノ軽減ヲ実行スルコト、2. 農家ノ負担スル地方税ヲ軽減スルコト」で²¹⁾ 植民地米に関し、さきの帝農総会の決議の微温的な月別平均移入でなく、ハッキリと移入統制（制限）を打ち出していた。

11月2日、全国農会長大会の運動委員会（各府県2名）を開催し、午後農相官邸を訪問し、町田農相に陳情し、農相を窮地に陥れたが、農相は米買上げを言明しなかった。この日の日記に「全国農会〔長〕大会運動委員会。十時前百四十名位参集。対策ニツキ種〔々〕協議ヲナス。初メテカ、ル会議ニ参加セルモノ、議論好ノモノ等アリテ討論ヤカマシ。午后一時、一府県二名農相官邸ニ行キ、農相ニ陳情。福島県南会津郡出身日黒幸太郎ナル人、弁論ノ雄、第一ニ陳情ヲナシ、農相ヲ窮逐ス。其他交々言質ヲ取ラントセルモ、農相米買上要項ヲ言明セズ、引取り、更ニ次ノ対策ヲ討議シ、農相ノ誠意問題沸騰シ、結局各県一名残り、明日対策ヲ協議スルコト、シ、六時散会。農政協会常務員会ヲ

21) 『帝国農会報』第20巻第12号、昭和5年12月号。

開催」とある。3日も運動委員会（各府県1名）を開催し、今後の運動方法を協議した。4日も運動委員会を開き、午前は各新聞社への挨拶回り、午後は安達内相、松田拓相、俵商工相、町田農相を訪問し、陳情した。そして、滞京委員を選んで、解散した。

11月4日、午前10時過ぎより、首相官邸にて米穀調査会諮問第2号の第4回特別委員会があり、温は全国農会長大会運動委員会の会合のため、1時間ほどしか出席出来ていない。この特別委員会で、上山満之進委員（貴族院）が幹事原案に対する修正案（米穀法発動の基準は率勢米価の上下2割で、今後10年米穀生産費、家計費を調査して、その上で生産費、家計費を加味して決めるという修正案）を提出し、賛否の議論がなされている。翌5日も米穀調査会第5回特別委員会が開かれ、上山委員の修正案への賛否がなされ、安川、橋本、三橋委員等が賛成し、山田、矢作委員等が反対している。その結果、上山委員がさらに修正し、米穀生産費、家計費、率勢米価を基準に決めるが、生産費と家計費の調査資料が整備されるまでは暫定的方法に依り率勢米価の上下2割によるとの改修正案を提出した²²⁾ 温は上山委員が生産費を軽視していることに不満であった。この日の日記に「米穀調査特別委員会出席。上山案ヨリ修正案ヲ提出ス。橋本博士が上山案ニ賛成シテ生産費ヲ軽視セラレシハ其意ヲ得ス」とある。

11月5日、温は午後9時15分上野発にて新潟、長野県に出張した。翌6日午前8時新潟県中蒲原郡新津町に着し、岩船郡勝木に行き、八幡小学校にて開催の岩船郡農会主催の町村農会総代会（東部6カ町村）に出席し、午後温が講演を行った。その夜は瀬波温泉に宿泊した。翌7日は岩船郡保内村に行き、坂町小学校にて開催の西部数カ村の農会総代会に出席し、午後農政問題について講演を行い、瀬波温泉に宿泊した。8日は岩船郡村上町に行き、劇場巴座にて開催の中部12町村農会総代会に出席し、午後講演を行った。終わって、午後

22) 『米穀調査会議事録』（第3巻）198、225頁。

5時発にて柏崎に行き、宿泊した。しかし、この日温は首筋痛み安眠できなかった。9日は長野県に行き、桑原外科に診察し、応急手当を受けたが、痛みとれず、この日も安眠できなかった。10日、再度桑原外科で治療を受け、午前11時長野を発し、下伊那郡飯田町に向かい、午後3時飯田に着し、宿泊。首の痛み稍和らいだが、やはり安眠できなかった。11日、温は下伊那郡座光寺村に行き、青年会主催の講演会に出席し、午前9時半より午後4時まで講演を行った。当地の青年は知識が進んでいた。この日の日記に「座光寺ニテ青年会ノ主催ニテ講演会開催。午前九時半ヨリ午後四時マテ講演。智識思想共ニ発達セル地方ナルヲ以テ、極メテ真面目ニ静聴…。要領ヲ得タル質問等アリ」とある。翌12日は下伊那郡市田村に行き、公会堂にて開催の同村農会と青年会の共同主催の講演会に出席し、午前10時より午後4時半まで講演を行った。13日は下伊那郡伊賀良村に行き、同村農会と青年会の共同主催の講演会に出席し、前日と同様講演を行った。終わって、郡村農会技術者との懇談会に出席し、宿泊した。14日は下伊那郡農会に行き、町村農会役職員協議会に出席し、午後温が講演を行った。夜は鯛飯楼にての慰労会に出席した。尚、この日、浜口首相が東京駅で狙撃されている。温の日記の欄外に「浜口首相狙撃サル（東京駅）」と記されている。15日は下伊那郡農学校に行き、午前10時より農学校創立10周年の記念講演会に招かれ、講演を行った。夜は鯛飯楼にて駒場の同窓会に出席した。16日は午前中下伊那郡上久堅村に行き、塩沢俊士の農業経営を視察し、午後は2時より4時まで同村にて講演を行った。終わって、飯田町に帰り、夜8時出発帰京の途につき、翌17日午前6時40分東京に着した。

11月18日以降、温は米価運動を行った。18日午後、全国農会長大会実行委員会（米価問題実行委員会）を開催し、12府県農会の委員が出席し、今後の運動を協議し、2組に分かれ、民政、政友両党本部を訪問した。温は民政党を訪問し、加藤政之助、原脩次郎、横山金之助に明後日（20日）の米穀委員会で300万石以上の米買上げをするよう要望した。夜は帝農評議員会を開催し、

基準米価、表彰農会、農会歌等について協議した。19日、米価問題実行委員は午前8時半より4組に分かれ、米穀委員の自宅を訪問し、明日の米穀委員会で300万石以上の米買上げをするよう運動した。午後、温は松岡勝太郎（岐阜県、大会実行委員）、村上代議士とともに町田農相を訪問し、町田農相の要望により温と2人にて会談した。日記に「后、松岡君ヲ伴ヒ、村上代議士ト農相官邸ニ会合シ或運動法ヲ講ス。自分ハ別ニ農相ノ希望ニヨリ、二人ニテ会談ス。農相ノ意ハ言外セサル予定計画ヲ察シ呉レトノ希望ノ如ク考ヘラレシ」とある。20日も大会実行委員は各米穀委員を訪問、運動した。この日、午前農会側の米穀委員である土井権大、荒川五郎、池田亀治が帝農事務所に来会し、矢作会長と打ち合わせし、午後1時半からの米穀委員会に出席した。米穀委員会では、先ず200万石以上の内地米買上げ及び道府県の罹災救助金により50万石の買上げとなった。農会側の主張にほぼ近く、運動は成功した。この日の日記に「実行委員ハ各米穀委員ヲ歴訪ス。土井権大〔大〕氏、荒川五郎氏、池田亀治氏来会。会長ト打合セテ委員会ニ出席セラル。午后四時過、委員会終了。農林当局ノ方針決定シ、先ツ二百万石買上ケ及道府県ノ備荒貯蓄ニテ五十万石買上ヲナサンコトニ決ス。右ハ農会側ノ主張ノ大体容レラレタルモノニテ実行委員一同満足ス。七時ヨリ、中央亭ニテ実行委員ノ主催ニテ農政記者ヲ招待シテ小宴ヲ催フス。要スルニ今回ノ運動ハ成功ス」とある。21日、温は大学病院に浜口首相を見舞っている。また、この日実行委員は農林省、米穀委員に挨拶回りし、退京している。22日、温は松岡勝太郎とともに松田拓務大臣を訪問し、朝鮮米の移入統制について陳情した。しかし、拓相は米穀法の朝鮮への適用延長を希望していた。23日は日曜日で、温は綾子、慎吾とともに駒場の農科大学の運動会を見学した。

11月24日午後、首相官邸にて米穀調査会の第7回特別委員会が開催され、出席した。引き続き、基準米価決定についての議論が続いた。25日も第8回特別委員会が開催され、米穀生産費、生計費の内容について質疑が続いた。26日にも第9回特別委員会が開催されたが、基準米価の意見まとまらず、来月に

再び開催することにした。また、この日、全国町村長会の福沢、福井、産業組合中央会の千石らが来会し、帝農で農家負債整理問題について協議している。27日は農林省を訪問し、村上林政課長に面会し、国有林整理委員会の件について協議、28、29日の両日は帝農にて第8回農業経営審査会を開催した。30日、温は午後1時東京発にて宮崎県に出張の途についた。

12月も温は多忙であった。1日、温は午後7時31分宮崎に着した。1日から3日間、宮崎にて第3回九州沖縄農業経営主任者協議会が行われ、それに出席した。3日、宮崎農学校講堂において開催の農会経営研究会ならびに農会大会に出席し、午後、温が農業経営と米価問題と題し、来会の700余名に対し2時間ほど講演した。4日、温は西諸県郡農会復旧促進のために、西諸県郡小林町に行き、小林中学校にて県農会主催の農政講演会を行い、2時間程現在の農会運動の性質ならびに農業経営について講演を行った。終わって、延岡に行き宿泊した。5日午前9時50分延岡発にて大分に向かい、午後1時半大分に着し、直ちに、県公会堂における郡市農会役職員会に出席し、米価問題に関する経過を報告した。その日は別府に行き宿泊した。6日は午前7時40分別府発にて宇佐郡に向かい、途中速見郡日出町に下車し、木崎村役場を訪問し、同郡農会の動静を聞き、四日市町に行き、宇佐郡農会問題を聞いている。7日午前11時11分別府発紅丸にて、帰京の途につき、翌8日午後4時40分東京に着した。

12月9日以降も種々業務を行った。9日は原稿執筆（農村と租税問題）、10日は出張中の書類整理、11日は来客者に対応、12日は正副会長出席の下、幹事会の開催、等。

12月13日、午前10時より首相官邸にて米穀調査会第7回総会が開催され、出席した。幣原首相が代理を努めた。諮問第2号につき、特別委員会の報告が前田委員長よりなされた。特別委員会では、温が出張中の12月5日の第11回特別委員会で米価基準に関し、率勢米価が決定されている。この日の総会に出された答申は「米穀法ニ依リ米穀ノ市価ヲ調節スル為、米穀ノ買入又ハ

売渡ヲ為ス場合ノ基準トナルベキ最高及最低ノ価格ハ米穀生産費、家計費及率勢米価ヲ基礎トシテ別記基準価格要項ニ依リ之ヲ決定スベシ。乃テ政府ハ直ニ米穀生産費及家計日ノ調査ニ着手シ適当ナル資料ヲ得ルコトニ務ムベク其ノ資料ノ整備スルニ至ル迄ハ暫定方法トシテ率勢米価ヲ基礎トシテ別記基準価格要綱ニ準ジ基準価格ヲ決定スベシ。此ノ場合ニ於テハ率勢米価ノ上値二割及下値二割ニ相当スル価格ヲ以テ最高及最低ノ基準価格トス」であつた。この答申案に大多数が賛成し、帝国農会側の矢作栄蔵、山田歙、山内範造、秦豊助の4人が反対した。この日の日記に「十時ヨリ米穀調査会総会開催（首相官邸）。幣原首相代理議長。率勢米価ヲ決議ス。反対者ハ矢作、山田、山ノ内、秦氏ノミ」とある。帝農側にとって不満な結果であつた。

12月14日以降も温は種々業務を行つた。14日は午前は原稿（新年用）を執筆し、午後は講農会総会に出席、15～18日は法律時報の原稿（農家負担問題）等、19日は神田文化学院にて婦選運動の団体（川崎、市川）に対し、米に関する講話、20日は午前10時より農相官邸における林野整備特別委員会（第1回）に出席、21日は日曜日で買物、22日は奈良県矢田村基本調査の編集、23日は西村代議士を訪問し、郡農会問題についての農村対策調査会決議の事情を聞き、また、安藤副会長、農林省の村上農政課長を訪問、24、25日は書類整理、26日は拓務省を訪問し、植田殖産局長に朝鮮米移入統制の状況を聞き、安藤副会長に報告等、27日は矢田村基本調査の再調べ、賀状整理等を行つた。

12月27日、温は午後9時45分東京発にて愛媛に帰郷の途につき、翌28日尾道経由、第15相生丸にて午後9時帰宅した。29日は信用組合に行き、証書の整理、30日は出市し、買い物等、31日迎年の準備を行つた。

第2節 講農会、東京帝国大学農学部実科独立運動関係

温は講農会会長を続け、東京帝国大学農学部実科独立運動に向けて本年も活動した。

4月28日、東京帝国大学農学部実科の新入生歓迎会があり、出席した。5月14日には青山墓地に大久保公の墓参を行った。

実科独立運動について。本年度の実科独立予算は前年大蔵省によって削除されていた。本年も実科独立に向けて運動した。しかし、浜口民政党内閣下で、実現は厳しかった。6月23日に温は文部省を訪問し、赤間局長に母校問題についての意向を質した。この日の日記に「文部省赤間局長ヲ訪ヒ、母校問題ニ対スル意向ヲ問フ。局長曰ク、大削減ニテ本年度ノ切抜策ニ苦心中、明年度予算ニハ未タ具体的立案ニ立ラス、云々…。蓋シ難色」とある。28日に帝農にて駒場交友会総会があったが、参加者少なく、低調であった。温も病気に欠席。7月24日に母校問題で、温は駒場交友会の奥野ら数名と文部省に出頭し、西次官、大麻参与官に面会、陳情を行った。8月30日交友会幹事会を開き、実科独立のために大蔵省に運動することを協議した。8月30日、温は西小路子爵、中村道三郎、染野道夫らと大蔵省を訪問し、小川、河田両次官に面会し、本年は是非とも文部省案を採用するよう陳情、懇請した。20日にも大蔵省を訪問し、関原会計課長に面会し、母校問題の経過を聞いている。10月14日にも大蔵省、文部省を訪問し、各会計課長に面会し、陳情した。しかし、実科独立予算は再び削除された。

第3節 家族のことなど

家族関係では、長女の末光清香（明治28年3月21日生まれ、34歳）は末光家で子供3人（照香、権一郎、満子）を育てている。4月、権一郎は中学校に入学した。

次女の禎子（明治35年2月2日生まれ、27歳）は、温と同居し、作家として活動し、戯曲、小説を多数発表し続けている。

4女の綾子（明治41年10月1日生まれ、21歳）は、温、禎子と同居し、帝国女子専門学校を前年3月24日卒業したが、引き続き、東京に居た。綾子に野口との縁談の話があったが、4月20日謝絶と決している。

長男の慎吾（大正元年8月23日生まれ、17歳）は、本年3月松山中学を卒業し、高等学校の入学試験を受けたが、不合格であった。3月23日の日記に「慎吾、入学試験不成績ノ由、禎子ニ手紙来ル」とある。温は慎吾に上京を促し、慎吾は4月17日上京した。そして、慎吾は19日、日土予備校に入学し、受験勉強を始めた。

親戚関係では、3月6日に甥の岡井一郎（妻、イワの兄・浜治郎の長男）が死亡している。前年4月に結婚したばかりであったのに。

また、6月8日に親戚の永木又市の公金使い込み事件が発覚した。10日、温は午後9時40分東京発にて永木の件にて帰郷の途につき、翌11日尾道経由にて午後7時高浜に着いた。高浜港では松田石井村長に会い、石井村公金横領事件の概要を聞き、また、松山市では信用組合長の石井信光からも意見を聞き、9時過ぎ帰宅し、ただちに親族会議を開き、協議した。しかし、まとまらなかった。12日、温は石井村役場に行き、松田村長らに面会、親戚の意見を伝えたが、村長側は立腹し、夜、再び親族会議を開き、結局、親類で2,000円を尻拭いをすることを決めた。13日、温は松田村長宅を訪問し、その顛末を伝え、落着となった。

なお、岡田家の土地所有であるが、1月2日に温宅所有の石井村大字南土居字長末の土地1反11歩（小作人の柏儀一郎が小作）の売却を決し、そして、2月21日に温は石井村役場に出頭し、温宅の土地所有の調査を行った。1町2反余（宅地共）であった。